

# 会 報 《第419号》



次代を築くヒューマン・ネットワーク  
一般社団法人兵庫県建築会

令和2年9月1日

## 《目 次》

- |          |   |          |
|----------|---|----------|
| I 特別講演会  | 「ポストコロナ時代の兵庫の展望」<br>兵庫県副知事 金澤 和夫 氏                  | ……2～5頁   |
| II 寄 稿   | 「第23回建設サマーセミナー」<br>前川建設株式会社<br>専務取締役 前川 真一郎 氏(当会幹事) | ……6～8頁   |
| III 特別寄稿 | 「兵庫防災の充実強化 I」<br>兵庫県広域防災センター<br>センター長兼消防学校長 森田 克彦 氏 | ……9～11頁  |
| IV お知らせ  | 行事予定、兵庫コロナ追跡システム、事務局だより<br>広報コーナー(住宅再建共制度)          | ……12～13頁 |



(疫病退散を祈った野辺の羅漢)

## I 特別講演会

演題 「ポストコロナ時代の兵庫の展望」  
兵庫県副知事 金澤 和夫 氏

(開催日 令和2年8月6日 東急REIホテル)



新型コロナウイルスが猛威を奮っているなか、当会ではポストコロナの時代にどう対処するかという問題意識のもと、金澤和夫 兵庫県副知事様を講師に迎え、「ポストコロナ時代の兵庫の展望」と題して特別講演会を実施しました。以下、その内容を取りまとめました。

### 《山本会長挨拶》



去る6月18日の兵庫県建築会定時総会におきまして、瀬戸本前会長の後を受け、会長を拝命いたしました山本康一郎でございます。

本日は会員の方々、また関係団体の方々、ご多忙中にも関わりませず、多数ご参加いただき誠にありがとうございます。

昨年末中国武漢市にて発症した新型コロナウイルス感染症については、多くの国や地域を巻き込みながら未曾有の経済危機をもたらしております。

当兵庫県においてもその影響は計り知れず、先般の緊急事態宣言が解除されたものの、社会経済の本格回復には長期間を要するものと思われ、これからが正念場であります。

建築業界においても、感染防止対策や民間建設投資の見合わせなど業界へのマイナス影響拡大が懸念されています。コロナ禍のもと、私たちの社会、生活がどのように変わっていくかを真摯に見直すことが重要と思われまます。

それでは、本日はご案内のように、新たな時代ポストコロナに向き合う必要があると考え、「ポストコロナ時代の兵庫の展望」と題しまして、金澤兵庫県副知事様による特別講演会を開催いたします。よろしくお願いたします。

### 《金澤副知事 講演》



### (新型コロナウイルス感染症) ～第1波と次なる波への対応～

感染者数は8月5日が52人、6日が61人と増えていますが、兵庫県は危機的状況ではなく、今の体制で十分にやっていると考えています。

一番大切なことが医療体制ですが、中等症以上の入院病床と軽症・無症状の方の宿泊療養施設での2本立てで運用しています。現在入院病床を500床程度、宿泊療養施設を500弱程度準備しており、十分な余裕がある状況ですし、今後さらに増やしていくこととしています。

この体制づくりは県民の皆さんにも今のところ安心していただきたいと考えています。

また、兵庫県では他府県とは違い、自宅療養は基本的に認めていません。すべて入院か、ホテルでの療養として、しっかりグリップコントロールできる形を守っており、恐らく国内でも最も信頼できる対応をしていると思っております。

仮に重症者が増えた場合でも、尼崎総合医療センター、加古川医療センター、神戸中央市民病院が専ら受け入れることとし、集中した対応を図ることとしています。

兵庫県の検査体制は1日当たり最大約1200弱ですが、2500まで増やす予定です。

感染者の抑止の問題は非常に難しいですが、兵庫県では特定業種が大きな発生源になっていることは確認されていません。保健師さんらの現場の

感覚からも県外から持ち込んだものが、県内に広がったというケースがほとんどです。

県の感染防止対策として、個々の県民の皆さんへ呼びかける「ひょうごスタイル」の推進を進めています。どうぞご協力くださるようお願いいたします。

### 「ひょうごスタイル」の推進

- (1)感染拡大を予防する「日常生活」(ライフスタイル)  
ウイルスとの共存を意識した生活習慣
- (2)感染拡大を予防する働き方(ワークスタイル)  
在宅勤務、オンライン会議、時差出勤 等々
- (3)自然災害と感染症との「複合災害」への備え(災害文化)  
新型コロナウイルスに対応した避難所運営がオンライン複合災害に対応するための事前準備



### (ポストコロナ時代の兵庫の展望) ～新たなビジョンづくり～

色々な社会変化があって、そしてその先にあるもの、これを見越した長期ビジョンを作ろうとしていましたが、今回のコロナ問題が非常に大きな社会的インパクトを与えています。そのため、次に来る社会とももの見方、社会の組み立て方は違うものになる可能性があります。

そういう意味で、長期ビジョンを考える中でポストコロナの社会も一緒に考えていくことが正しいのではないかと考えています。

長期ビジョンは、人口減少と人口の偏在・集中化に対応するための総合戦略です。個別の政策、個別の取り組みを取りまとめたものではなく、将来像としてイメージできるもの、それらを羅針盤として県民の皆さんと行政がともに一つの目指すべき姿を共有しながらそれぞれが取り組んでいこうということで、ビジョンづくりをしたところです。

今回の長期ビジョンは 30 年先を見通すもの 2050 年の社会をイメージしたものです。また「2030 年の展望」という言葉も出てきますが、中期的に 10 年先を見据えた取り組みを整理したものです。



現在のビジョンも「全県ビジョン」と「地域ビジョン」の2つの要素からなっており、全県ビジョンは4つの社会像、12の将来像を描いています。「地域ビジョン」は県民局単位ですが地域のイメージを創っていこうとしたものです。



長期ビジョンを議論する背景として、大きな環境変化を5つのポイントで整理しています。

#### 1 「人口減少と少子高齢化」

高齢化が進んだ集落のコミュニティはかなり変質している可能性が高いので、今のうちにどのように仕込みをしていくかが重要です。

また、外国人が増えていくのですが、どのような形になるかは織り込んでいません。受け入れ態勢をポジティブに作れるかということが大きな課題だと思います。

## 2 「新技術の浸透」

これは非常に激しいスピードで変化し、社会の隅々まで浸透しています。今回のコロナ禍の中でもテレワーク、遠隔医療など新しい技術が数多く活用されています。なかでも人口減少・人手不足のなかロボット化の可能性は高いものがあります。

こうした仕事そのものの変質、そこで働く人々の持つべき資質のニーズ、要求されるものも大きく変わっていく可能性があります。

## 3 「人生 100 年時代の到来」

今現実には会社によっては従業員に副業を勧めています。その方が色々な視点、視野、情報、人脈ができてプラスになるという発想です。そういう複線的なライフコースが普通になるかもしれません。定年退職もなく、働くことができればずっと働けばいい。働き方は単線的ではなく、多様化していく可能性があります。

## 4 「世界的な交流の拡大」

コロナの関係で人の移動に水をさされていますが、世界人口は増え、貨物量や情報量なども増えていきます。国をまたがってモノや情報が行き来する。こうした状況、世界的な交流を意識して取り組みをやっていく必要があります。このコロナ禍が終息した後、人の行き来、空港のキャパシティ拡充なども議論する可能性も十分あると思います。

## 5 「リスクな世界」

地球環境問題、温暖化問題、南海トラフ地震、そしてコロナ禍を含めた感染症など非常にリスクな時代になるということです。

こういう地球環境全体の問題、そこに秘められたリスクの問題、こういうものを我々は意識しなければならないバックグラウンドのひとつだと思います。



いろいろなことを念頭に置きながら新ビジョン作成に取り組んでいます。その一つが「将来構想研究会」で、若手の先生方にちょっと尖った意見、

大胆な意見をいただいています。

例えば、①定住する時代ではなく、ノマド（放浪）みたいに流動する時代になる ②多自然地域こそが若者を引き付ける ③兵庫が最先端技術の発信地に ④大企業信仰が消えて、個人事業主が主体に ⑤地域コミュニティが体験教育の中心に展開する ⑥自分なりの生き方追及などの意見が出ており、考える価値があると思っています。

もう一つが、「ポストコロナ社会兵庫会議」です。各界の有識者に議論をしてもらおうというものです。

①パンデミック時代の危機管理のありかた、②デジタル革新の加速化 ③産業の競争力のみならずリスクに対する耐性の強化 ④分散型社会の構築 ⑤社会の絆、コミュニティ共生のあり方等々の意見が出ています。

また、県民の皆さんからの色々なアイデアの募集もやっています。面白いアイデアが出てくることを期待しています。



最後にここにお集りの方々への期待を申し上げたいと思います。

### ①分散型社会の空間づくりの立役者に

新しい住み方、新しい働き方が生まれてくるときに、それを巻き込む空間、自宅、オフィス、場合によっては田園であったり、過疎地であったりと、そういう空間をどうやって作っていくかは大きなポイントだと思っています。

### ②AI時代のプロフェッショナルに

新しい技術要素を盛り込んで、それぞれそこに暮らす人たちの生活レベルを上げていくにはどのようにうまく生きていかなければならないかも大きなテーマだと思っています。

兵庫県は恐らく変化の時代に強い県だと思っています。よく言われる「五国の多様性」、地域の多様性にも非常に富んでいますし、それぞれの地域の県民性も違います。一色の遺伝子のなかでは新しい時代に対応できないが、兵庫県のように多様に富んだ地域は変化に対応していく可能性が非常に高いと思っています。

変化の時代の中で、われわれが取り組もうとしているビジョンにより、県民共通の羅針盤として

の意味は非常に大きなものになるのではないかと期待しています。

これがちょうどコロナを乗り越えて、次の日本社会をどう作っていくかということに重なりますので、最もポストコロナ社会にふさわしいレベルの高い社会をこの兵庫から発信してまいりたいと考えています。

今まさに、こういう時だから、みんなで考えるべき大事なことだと思っています。ここにお集りの皆さんからもご提案、ご提言いただき、議論に参加していただきたいと考えています。

#### 《質疑応答》



(松田 兵庫県建設業協会会長)

本日は有益なお話を聞く機会をいただきありがとうございました。

コロナ対策にあたっては、十分な対応がなされており、非常に安心いたしました。

要望なんですけど、ここ数年災害で非常に被害が出て、緊急対策等で県を含めて多くの予算がついていますが、毎年着実にやるのも重要で、今後継続して予算措置をしていただければと思います。

(金澤副知事)

兵庫県ぐらい長期で計画を策定し、取り組んでいるところはほかにあまりないと思います。

しかし、今回コロナの関係で10兆円規模での予算措置がなされましたが、コロナ終息後に緊縮財政にもどすという可能性も十分にあります。

社会資本整備は長期的な取り組みこそが意味があるので、そういう形にならないか懸念しています。ここにお集りの皆さんと国に対して意見を言っていきたいと思っています。

(北浪 兵庫県建築会理事)

高齢化が進むとドローンや自動運転などが大いに期待されると思いますが、技術が革新的なため法律等をクリアできない問題もあると思います。そのため、ある地域を指定して実証実験をすればよいと思いますが、いかがでしょうか。

(金澤副知事)

一定のエリア、例えば三田ではニュータウンだけを走る自動運転に取り組んでいたりしますが、都市全体というよりルート限定とかの形になっています。

次の時代を見越すと、自動運転は住み方ということでは社会的インパクトは非常に大きいと思います。片方でドローンの活用など過疎地でのコストハードルをクリアするのに大きな期待が寄せられると思います。

できれば、色々な実験を規模が小さくてもやれば良いと思います。



#### 《大木副会長 講演に対する感謝と挨拶》

本日は多数の方にご参加いただき、またご多忙中にも関わらず、ご講演をいただいた金澤和夫兵庫県副知事様に心からお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は新しいフェーズに入ったと思います。

新しい社会、新しい生活と次のステップを見据えた対応が強く望まれているなか、本日のご講演は誠に示唆に富んだものでございました。

本日も示唆いただいた内容を参考として、一人ひとりがポストコロナの時代を歩んでいかなければならないと強く感じました。

今日は貴重なご講演本当にありがとうございました。皆様、金澤副知事様に感謝の拍手をお願いします。

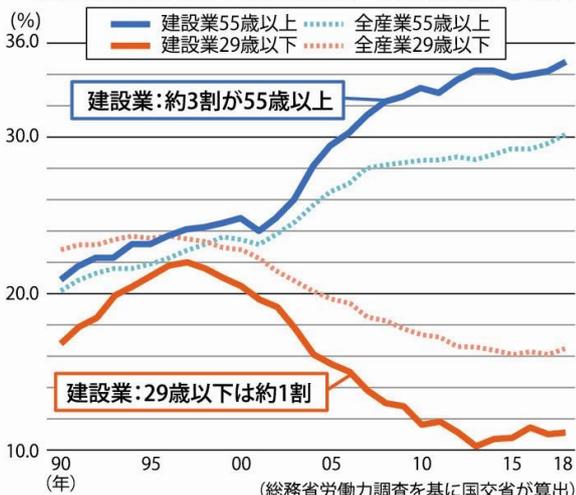


**Ⅱ 会 員 寄 稿**  
**『第23回 建設サマーセミナー について』**  
**前川建設株式会社**  
**専務取締役 前川 真一郎 氏 (当会幹事)**

かつて“コンクリートから人へ”と、借金を増やすお荷物のようにいわれた建設業ですが、“国土強靱化”以降と申しましょうか、多発する自然災害から「国土や地域の守り手」としての必要性が見直され、ようやく、少しずつではありますが、イメージが改善されつつあるように思います。

しかしながら、建設業を生業にしたいと思えるか？といえそうではないようです。

**建設業就業者に占める55歳以上と29歳以下の割合**



上記は、おなじみ通称“ワニの口”と呼ばれる図。全産業から比べても、明らかに高齢化率が高く、若年者の入職が少ないことが分かります。『10年後、3割強を占める55歳以上のベテランがご勇退されたらどうなるのか・・・』建設業に携わるものとして不安を抱かざるを得ません。

そのため、国・県を挙げて若年者の入職に対して、あらゆる施策がなされています。(一社)兵庫県建設業協会が主催する『建設サマーセミナー』も今ではその一つとなっていますが、そもそもは、28年もの前、1992年に始まった『通年型インターンシップ』に端を発します。

当時、兵庫県立東播工業高等学校の一教諭であった内藤康男先生(のちに校長を務められます)が、「景気の好不調によって求人側と求職側とがシーズンゲームをしている実態があ



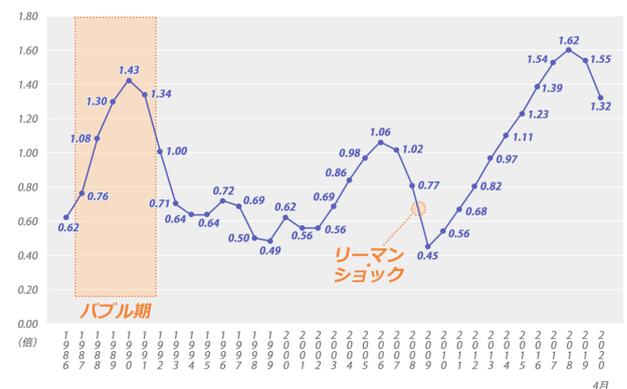
内藤先生

る。そうやって景気に振り回されながら生徒を育てていても、夢を与えられない。そうならないためにも、産学が連携した人材育成をする必要があるのでは」と兵庫県建設業協会の三木会長(当時)に訴えました。

一方、兵建協としては、当時、売り手市場として人材確保に苦戦している地元の建設業のために何かしなければならぬと考えており、双方の思いが合致することで『通年型インターンシップ』の実現に至りました。

30年前のバブル時の人手不足に始まり、いざなぎ景気、リーマンショック、アベノミクス、そしてコロナ不況と繰り返されるシーズンゲーム。その中で人材育成を主軸においた内藤先生のお考えは、極めて的を射たものに思えます。

**最新版 全国の有効求人倍率**



その後、内藤先生は、「東播工だけがいい思いをしては不公平だ。他校の生徒にも現場実習を経験させたい。」という思いから、1998年に複数校が参加する短期間のダイジェスト版のような『建築サマーセミナー(当時は建築のみでした)』を開始するに至りました。これは奇遇にも兵庫県下の中学2年生を対象にした職場体験学習『トライやる・ウィーク』の始まりと同じ年でした。

そんな思いから始まった建設サマーセミナー。23回目となる本年は、龍野北高校から3名、東播工業高校から3名の計6名が参加されました。例年30名～50名ほどの参加者で開催していますが、このコロナ禍での参加については、各学校長の英断がなければ実現しません。

龍野北の栗林校長は、「行きたいというものがいるなら、ぜひ参加させたい。」と、東播工の川西校長は、「やらないという決断は簡単。しかし、子供たちにとって貴重な経験をさせてあげたい。その



川西校長先生

ためには、どうしたらやれるかを考え、様々な調整をしてきた。」と仰っていました。事なかれ主義の多いこの世の中、このような胆識のある先生方が教育界にいらっしゃるということは、本当に嬉しい限りであります。

それでは、今回弊社で開催しました第23回建設サマーセミナーの概要をご紹介します。

8月4日

●ガイダンス（実習説明）、安全教育



●ICT 施工実習（日岡山公園駐車場整備工事）



【コマツ マシンコントロールバックホー】

3次元の設計データをもとに、アシスト機能でバケットの刃先が設計面に沿って動くことを体験してもらいました。



【コマツ マシンコントロールブルドーザー】

3次元設計データをもとにブレードが自動制御されることを体験してもらいました。

上記の二つは、熟練工がいなくても、熟練工同等の施工精度を実現することが可能となります。しかも、地盤面を確認するための合番作業員も不要となり安全性にすぐれ、作業スピードが早く、

大幅な工期短縮が望めます。



【ドローン体験】

ドローンの操作は、弊社の有資格社員が行い、参加者にはドローンに搭載されているスタビライザーカメラの操作を行ってもらいました。

《参加者アンケートより》

実際の最新の建設機械を体験できたことが印象的だったようです。そして様々なものが自動化していることに大変驚かされていました。

8月5日

●基礎コンクリート打設工事実習（神戸物産本社新築工事）



【スランプ試験】

【コンクリート打設】

●床断熱防露工事実習（宗佐公会堂新築工事）



【スタイロフォームの敷設実習】

●鉄骨・鉄筋・左官工事実習（榊藤原産業ホールディングス第2倉庫増築工事）



【柱モルタル塗り実習】

【鉄筋結束実習】

《参加者アンケートより》

鉄骨造の仕組（ハイテンションボルトやスタッドボルト等）を実際に見たことが印象的だったようです。また、モルタル塗りや鉄筋結束作業を通じ、職人さんの技能の高さに驚かれています。

8月6日

兵庫耐震工学研究センターにて

●実大三次元震動破壊実験施設（E-ディフェンス）見学



【実験棟（世界最大の振動台）】



【水平加振機】



【鉛直加振機】



【アーキュレーター】



【クーリングタワー】

●現場見学（5階建て鉄筋コンクリート造建築物の試験体工事）



【現場全景】

【ひずみゲージ端子】

《参加者アンケートより》

今回 E-ディフェンスの内部見学は、通常の見学会より内部の奥の奥まで見せていただいたこともあり、非常に感激していました。免震・耐震・制振などの構造にも興味を持ったようです。

3日間を通して、参加いただいた生徒の皆さんからは、「学校では学べない、実際に見て、体験し、職人さんに直に話を聞き、生で学べる貴重な体験をすることができた。この経験を無駄にせず今後活かしていきたい。」という声を頂きました。

たったの3日間の建設サマーセミナー。これで建設業の全てが分かった訳でもないですし、本当の苦労や喜びを味わうこともできなかつたと思います。たとえそうであっても、座学では学べない、働くということとは何か、仕事の意義とは何かということ、少しは肌身で感じる事ができたのではないかと思います。

3K（きつい、きたない、危険）と言われる建設業、最近では、6K（+帰れない、厳しい、格好悪い）ともいわれているようです。そういった表面的な部分だけを見て敬遠されてしまいがちな職業であります。

そのことを改善しようと週休二日制の導入等、様々な待遇改善の試みがなされています。

それはそれで重要なことではありますが、一方で、若者たちが、仕事に対して「やりがい」や「世の中への貢献」を求めていることも事実であります。

仕事は、個々が生きていくために必要なことです。それは間違いありません。しかし、その仕事自体は、人のお役に立つことで成り立っています。人生の多くの時間を費やす仕事、待遇面の改善ばかりでなく、世の中に貢献することの喜び、社会の一員として誇りをもって生きていくことの喜びを私たちみんなで伝えていく、そのことこそが、この国の未来に繋がっていくように思います。

建設や土木の技術者自らがドローン情報処理技術士試験を受験し、プロの技術者として活躍する。加古川市で始まった。生徒は、ドローンを使い、現場の写真を撮影する。加古川市立加古川高等学校。今年、この現場を訪れ、小規模は6日間で、東播工業

ドローンで駐車場整備現場撮影…最先端の建設工事体感 加古川 高校生、プロの技術学ぶ

工事現場で使うドローンを見学する高校生 加古川市加古川町大野

（神戸新聞 令和2年8月5日（水）朝刊）

**Ⅲ 特別寄稿**  
**『兵庫防災の充実強化 I』**  
兵庫県広域防災センター  
センター長兼消防学校長 森田 克彦 氏

今年、新型コロナウイルス感染症が、世界的に猛威を振るい、住民参加の防災訓練をはじめ花火大会や伝統的祭りなど各種大型イベントが中止に追い込まれるなど、異例づくめの対応に追われているといえるのではないのでしょうか。しかも、これほど長い期間にわたって対応していかなければならないとは誰も予想していなかったと思います。このような中で、防災対策はさらなる充実強化を迫られていると考えています。

## 1 兵庫の防災・減災対策

### (1) 兵庫県の防災体制

#### ① 阪神淡路大震災からの出発

これまで、兵庫県では、大正 12 年の北但馬地震や昭和 13 年の阪神大水害など多くの自然災害に遭遇してきました。このような中、兵庫県の防災体制の充実の大きなきっかけとなったのは阪神・淡路大震災です。

死者、行方不明者数 6,437 人、全半壊家屋数 25 万棟、直接被害総額約 10 兆円という未曾有の災害となりました。高齢化が進む、人口集中地域の大都市で発生したことが、今後の災害対策を構築するための大きな経験や教訓となりました。



(阪神・淡路大震災)

#### ② 阪神淡路大震災の教訓と防災体制の強化

##### ア 初動体制の整備

一つ目の教訓は、災害対策要員が集まらず、職

員数が圧倒的に不足したことや衛星回線が地震で利用できなくなるなど災害情報がほとんど収集できなかったという初動対応に混乱を来したことです。

このため、災害対策要員を確保するため、24 時間監視即応体制を確保するため、4 名の宿直要員を災害対策センターに夜間、休日の間、配置するとともに、県庁周辺に 3 棟・76 戸の災害待機宿舎を整備しました。

さらには、防災関係機関が、いち早く災害情報を収集し、共有するとともに、被害予測や求められる物資及び要員数等の需給推計ができるフェニックス防災システムを整備しました。

##### イ 普段からの備えの充実

二つ目は、県庁自体が被災したことにより、災害対応にソフト面、ハード面で脆弱であったため、災害時だけでなく、普段から防災組織を強化し、災害に強い防災拠点を整備することが重用でした。

そのため、防災組織の充実を図るため、知事を補佐する危機管理の責任者として防災監を設置し、この下に、約 80 名からなる防災企画局、災害対策局の 2 局体制の組織としました。(震災当時は 1 課 20 名体制)

また、風水害はもとより、震度 7 クラスの大地震にも耐えられる強度を有する災害対策センターを平成 12 年 8 月に全国自治体初の独立庁舎として整備しました。



(災害対策本部会議室)

さらには、震災当時、物資の集積や自衛隊等の応急活動要員の集結場所がなかったことから、被災者用物資や救助資機材の備蓄機能、救援物資の集積・配送機能、活動要員の集結・出動機能を備えた、広域防災拠点を、三木市(全県拠点)をはじめ阪

神、西播磨、但馬、丹波、淡路(ブロック拠点)を整備しました。

### ウ 地域防災力の充実強化

阪神・淡路大震災で倒壊家屋等から被災者を救出したのは、8割が近隣住民や家族であったことが判明しました。そのため、地域の自主防災組織の組織化を進めるとともに、消防団の充実強化、地域防災リーダーの養成など、地域の防災組織を強化するとともに、毎月17日を減災活動の日とするなど防災力強化県民運動を進めました。

### エ 防災関係機関の連携の促進

阪神・淡路大震災の被災時に、なかなか自衛隊と連絡が取れなかったことや、消防機関同士でもホースの規格が違ったためにホースが繋がらなかったというような防災機関の連携がうまくいかなかった例が多くありました。

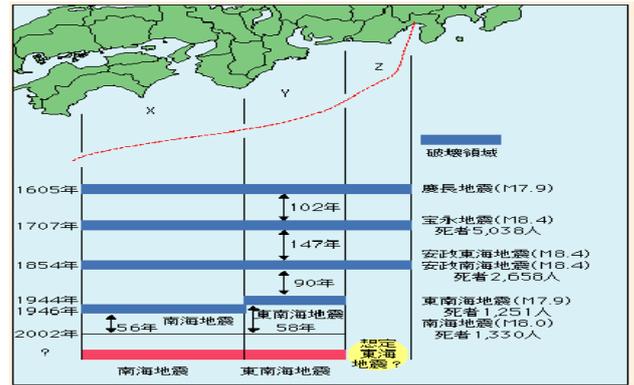


(防災訓練 風景)

そのため、防災関係機関が連携した実戦的な防災訓練や県・市町合同防災訓練等の実施の他、関係機関の人事交流などを実施しています。また、広域防災体制の確立として、県・市町の相互応援協定の締結や関西広域連合の設置により、緊密な応援態勢の確立に取り組んでいます。

### (2) 南海トラフ巨大地震への対応

南海トラフでは、これまで何度も繰り返し大地震が発生してきました。近年では、昭和19年の昭和東南海地震、昭和21年の昭和南海地震が発生しており、それから70年以上が経過しています。次の南海トラフ地震の可能性は、今後30年以内に70～80%といわれています。



(南海・東南海地震 被害想定)

### (被害想定)

想定される県内の震度は、洲本市、南あわじ市で最大震度7となっています。また、津波浸水想定は、県全体で6,141ヘクタール、最も津波の水位が高いのは、南あわじ市福良地区で8.1メートル、阪神間でも4メートルとなっています。

この災害による、県内の被害ですが、死者数は2万9千人、建物全壊家屋数3万7千棟と大きなものとなっています。

### (地震対策)

南海トラフ地震に備え、県では、地震・津波対策アクションプログラムを策定しました。

この中で、防潮門扉の完全閉鎖、粘り強い防潮堤等の越流対策、避難の迅速化(避難率を100%へ)、建物の耐震化(97%へ)、家具等の転倒・落下防止(100%へ)、初期消火の実施(80%へ)などを向上させることにより、死者を2万9千人から400人へ、全壊家屋数を3万7千棟から1万2千棟に、避難所生活者数を17万人から10万人へ減少させることが可能と考えています。

さらには、毎年、世界津波の日である11月5日には、地震津波一斉避難訓練を開催し、継続的に、具体的な行動を伴った避難訓練を実施しています。

### (3) 内陸部地震への対応

兵庫県内及び周辺には、非常に多くの活断層が分布しています。中でも、六甲・淡路島断層帯、有馬・高槻断層帯、山崎断層帯、中央構造線断層帯、上町断層帯などでは、強い揺れが想定されています。

そのため、耐震改修促進計画を策定し、建築物の耐震化に計画的に取り組むとともに、広域防災センターの隣接地に、独立行政法人防災科学研究

所の E-ディフェンスを誘致し、最先端の大規模な振動破壊実験等が行われています。

#### (4) 風水害対策

県内で発生する風水害としては、停滞前線による豪雨、雷雲による局地的豪雨、台風、高潮などがあります。このうち、過去に大きな被害をもたらしたものは、梅雨前線による豪雨と台風による風水害であり、7月と9月に集中しています。近年、ゲリラ豪雨と言われる集中豪雨は増加傾向にあります。

これらに対して、ハード面の整備はもちろんですが、例えば都賀川事故を契機として、河川利用者のための増水警報システムの設置を行ったほか、洪水、津波、高潮による浸水想定区域、土砂災害危険箇所など避難時に必要な情報を提供するための CG ハザードマップを作成し、県のホームページ等で公開しています。



(CGによるハザードマップ)

#### (5) 関西広域連合としての広域防災支援

平成 22 年 12 月 1 日には、関西広域連合が設立され、現在 2 府 6 県 4 政令市で構成されています。この中で、兵庫県は、広域防災局を担当しており、これまで様々な災害に対して支援活動を行ってきました。最初に最もその力を発揮したのは、東日本大震災でした。各府県政令市でカウンターパート方式を取り、役割分担して宮城県、岩手県、福島県等に長期間にわたって支援を行ってきました。

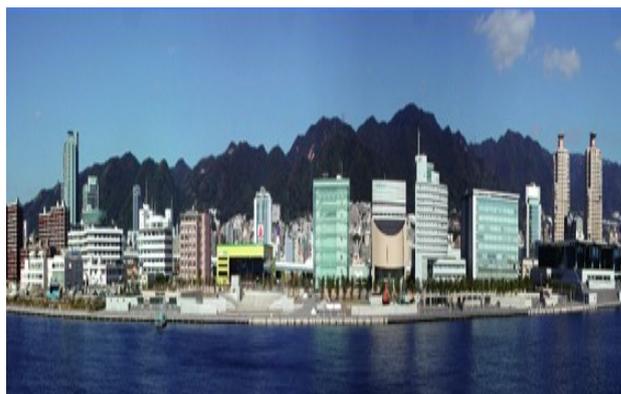
その後も熊本地震や 7 月豪雨災害等で多くの支援を広域的に行っています。

#### (6) 国際防災協力

兵庫県は、阪神・淡路大震災当時、海外から多くの支援を受けました。そこで、震災の経験や教訓を世界の減災のために発信することにより、国際協力を推進しています。

阪神・淡路大震災 10 年目の 2005 年には、第 2 回国連防災世界会議を神戸に誘致し、災害強い国づくりに貢献するための「兵庫行動枠組」が採択されました。さらに、この行動枠組みのキャンペーンにおいて、兵庫県は災害に強い都市としてのロールモデルに、国連から認定されました。2019 年 5 月には、ジュネーブで開催された「防災グローバル・プラットフォーム会合」で、震災 25 年間の取り組みの成果を世界に向けて発信しました。

また、HAT 神戸に JICA 関西、UNDRR、OCHA などの国際防災関係機関を誘致し、これらの関係機関と連携することで世界の災害被害軽減にも貢献しています。



(HAT神戸)

#### (結びに)

これからも「みんなで助ける、みんなが助かる」をモットーとし、兵庫の防災力の向上に取り組んでまいりますの、皆様のご協力よろしくお願いたします。

## V お知らせ

### ◎行事案内

- 1 第486回月例会  
日時：9月10日（木）  
13：00～14：00  
場所：東急REIホテル  
演題：「兵庫の近代建築」  
～小学校をはじめとする綺羅星のような  
名作の一群～  
講師：京都華頂大学教授 川嶋 智生 氏
- 2 第487回月例会  
日時：10月8日（木）  
13：00～14：00  
場所：東急REIホテル  
演題：「日々の暮らしにクラシックを」  
講師：チェロ奏者、大阪音楽大学講師  
植木 美帆 氏
- 3 研修交流会  
日時：令和2年10月22日(木)  
場所：城山ゴルフ倶楽部
- 4 第488回月例会  
日時：11月19日（木）  
13：00～14：00  
場所：東急REIホテル  
演題：健康マイプラン  
「災害時の食はどうあるべきか」  
講師：甲南女子大学名誉教授  
奥田 和子 氏

なお、これら行事につきましては、**新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みて、中止、延期等が想定**されます。変更等のお知らせは郵便、メール等でご案内しますのでご了承ください。

### ◎ 兵庫県新型コロナウイルス追跡システムの登録

同システムへの登録、填補等利用者へのQRコード読み込みの呼びかけなどにより、迅速で的確な対応が図れると思われまますので、ご活用ください。（以下のアドレスからアクセスできます）

新型コロナウイルス感染症に係る「兵庫県緊急用トップページ」のリンクですので、ご活用ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/index.html>

### ◎事務局だより

○ 防災の日  
毎年9月1日は防災の日として制定された啓発の日です。この日は1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、1960年(昭和35年)に制定されました。  
そのきっかけは、その前年の伊勢台風でした。死者行方不明者5000人以上、負傷者5万人以上、全壊半壊家屋15万棟という被害で、東北大震災、阪神淡路大震災に並ぶほどの被害がでました。

この伊勢風を境に我が国の対応は根本的に変り基本法の成立、政府、自治体の役割など大きな変化が起きました。

当日、国では南海・東南海地震を想定した大規模訓練が、各自治体では地域特性に応じた訓練が行われます。

日本は古来から災害多発の国でした。9世紀の「続日本後紀」「日本三代実録」や当時の貴族の日記などに頻繁に地震や水害のことが書かれ、災害の考古学ともいえるものが成立している珍しい国であり、災害の百貨店とも揶揄されるほど多様な災害がおこる国です。

伊勢湾台風から60年が過ぎましたが、今回のコロナ禍でまた新たなフェーズに入ったように思われます。

今台風シーズンを前に一番心配されているはコロナ禍での災害（複合災害）です。避難所マニュアルなど具体的な対応が切実に望まれます。

### ○ コロナ禍のこと

コロナのことが毎日毎日メディアに取り上げられ一喜一憂していますが、さながらこれが日々の日常になってしまった感があり、非常に恐ろしいものを感じています。

金澤副知事の特別講演会でも述べられていたが、コロナ禍の次のステップを意識しながら、今の生活や仕事をやっていく必要があると思えます。

新型コロナウイルスの猛威は勢いを持続しています。会員の皆さんにはご多忙中とは思いますが、ご自愛いただきますようお願いいたします。

事務局 : 吉本義幸、石井滝実子  
電話 : 078-996-2851  
FAX : 078-996-2852  
Email : [archit-k@axel.ocn.ne.jp](mailto:archit-k@axel.ocn.ne.jp)

安心をカタチに

# 兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

**今後、もしも！！**

**南海トラフ地震が発生したら**  
 ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!  
 ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

**活断層地震が発生したら**  
 ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

**大型台風が直撃したら**  
**豪雨による災害が発生したら**

自然災害で被災した住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ!**

| 県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に   |   | 県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に  |
|---|---|--|
| <b>住宅再建共済</b><br>年額5,000円で<br>再建、補修時等に<br><b>最大600万円</b> 給付!<br>※半壊(損害割合 20%)以上 | <b>一部損壊特約</b><br>年額500円で<br>補修時等に<br><b>25万円</b> 給付!<br>※損害割合10%以上20%未満 | <b>家財再建共済</b><br>単独加入 年額1,500円で<br>住宅とセット加入の場合 年額1,000円で<br>購入・修復時に 最大 <b>50万円</b> 給付!<br>※床上浸水・半壊以上 |

※ 住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

**お問い合わせ**

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

☎ **コールセンター 078-362-9400** (平日9:00~17:00)  
 FAX: 078-362-4082

✉ **E-mail jutakukyosaikikn@pref.hyogo.lg.jp**

フェニックス共済  **★加入申込書はダウンロードできます★**



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

**クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!**

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。

兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.iutakusaiken.jp/>